



平成28年7月22日
海上保安庁

西之島の火山活動の状況（7月19日観測）

当庁航空機による西之島の火山活動の観測を実施したところ、静穏な状態が継続していますが、突発的な噴火活動等の可能性があるため警戒を呼びかけています。

7月19日に羽田航空基地所属航空機（MA722 みずなぎ）により西之島の火山活動の観測を実施しました。

1. 火山活動の状況

火口及びその周辺に噴気及び火山ガスの放出は視認されませんでした（図1）。また、西之島の地表では、新たな溶岩流の流出は視認されませんでした。

熱計測装置の撮影結果では、火口付近に高温域が点在するものの、5月観測時と比較して顕著な高温域は認められませんでした（図2）。

西之島の南西海岸に薄い茶褐色の変色水域が分布していました（図3）。

また、海岸線全体的に、ごく薄い青白色から黄緑色の変色水域が幅約100mで分布していました（図4）。

同乗した東京工業大学火山流体研究センターの野上健治教授からは、「火口縁からの噴気活動は目視では確認できなかった。先月と比べて噴気活動は一段と縮退している。変色水域は、南西部に茶褐色を呈するところはあるものの、全体的には薄い青白色から黄緑色を呈しており、変色水域の面積減少も認められることから、熱水活動も縮退が進んでいると考えられる。」

とのコメントが得られました。

今回の西之島の火山活動は静穏な状態でしたが、突発的な噴火活動等の可能性は否定できず、その際の噴火による影響が及ぶおそれがあることから、西之島及び周辺海域（火口から半径0.9海里（=約1.5km）の範囲）においては、付近航行船舶へ引き

続き航行警報により警戒を呼びかけています。

2. 新たに形成された陸地の状況

前回調査（6月7日）の当庁航空機による観測と比較して、面積に変化がありませんでした（図5及び図6）。

○7月19日時点での西之島の形状（暫定値）

- ・東西：約1,900m（6月7日時点 東西：1,900m）
- ・南北：約1,900m（6月7日時点 南北：1,900m）
- ・面積：約2.68平方km

東京ドームの約57倍、噴火前の西之島の約12倍

（参考）6月7日時点の面積：約2.68平方km、東京ドームの約57倍

○西之島の面積の比較

基準とする事物	面積	各事物に対する西之島 (7/19時点)の広さ
	(km ²)	
東京ドーム	0.0468	約57倍
バチカン市国 [世界で最も小さい国]	0.44	約6.1倍
仁徳天皇陵	0.479	約5.6倍
東京ディズニーリゾート	1.003	約2.7倍
大阪城公園	1.06	約2.5倍
南鳥島 [日本最東端]	1.51	約1.8倍
モナコ公国 [世界で2番目に小さい国]	2.02	約1.3倍
西之島 (7/19)	2.68	
(6/7)	2.68	

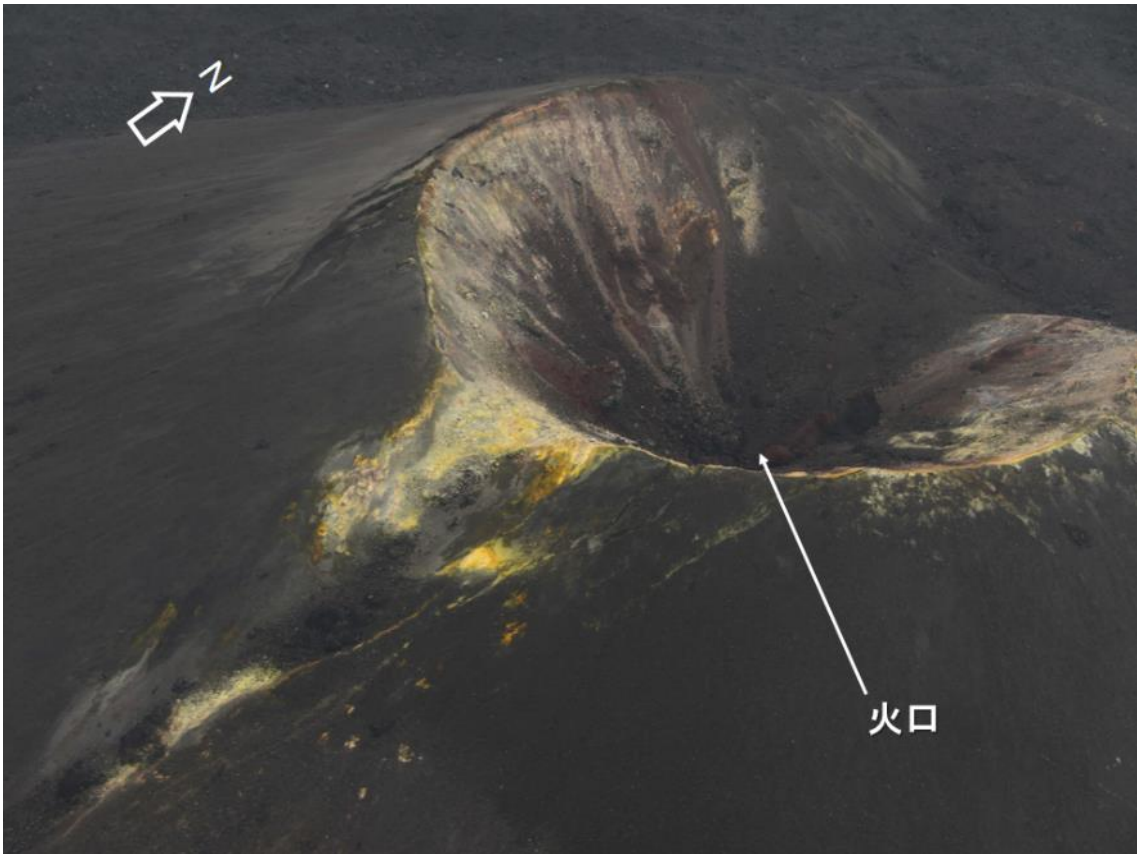


図1 火口及びその付近の様子（7月19日撮影）

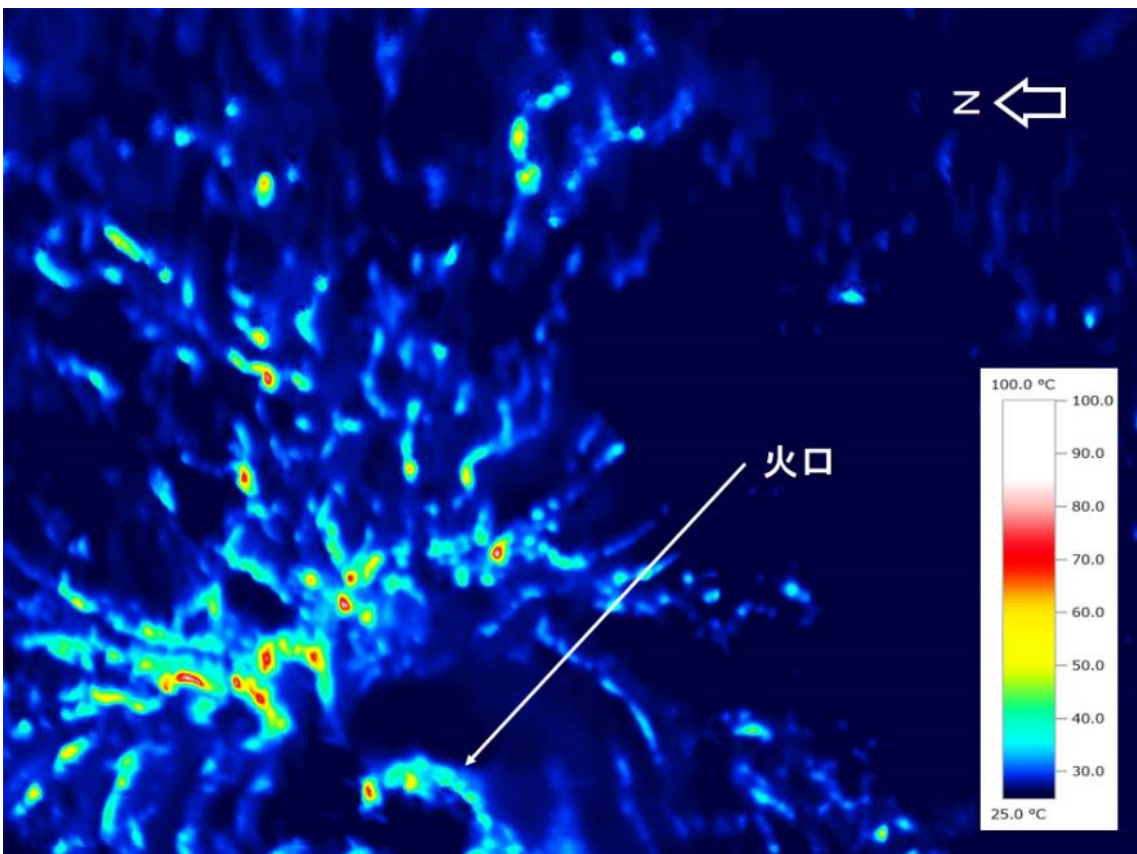


図2 熱計測装置による熱画像の状況（7月19日撮影）

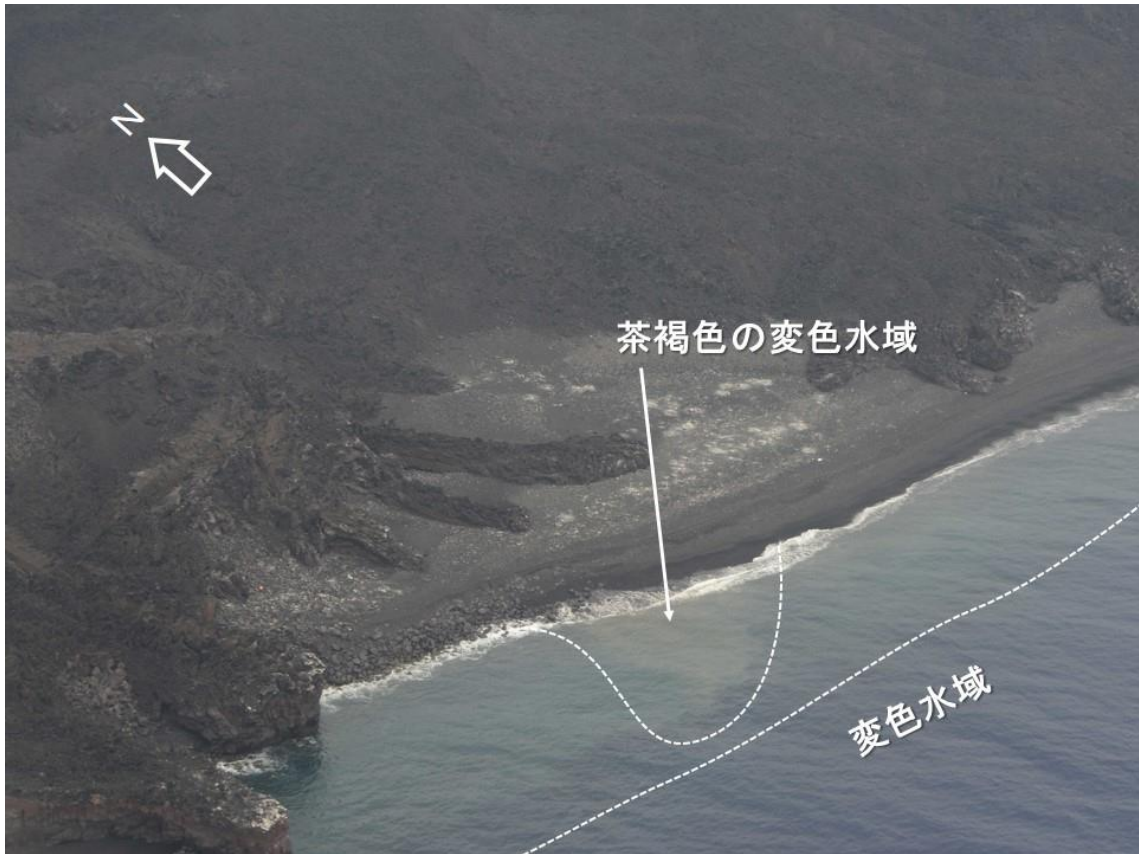


図3 南西海岸の変色水域の状況（7月19日撮影）

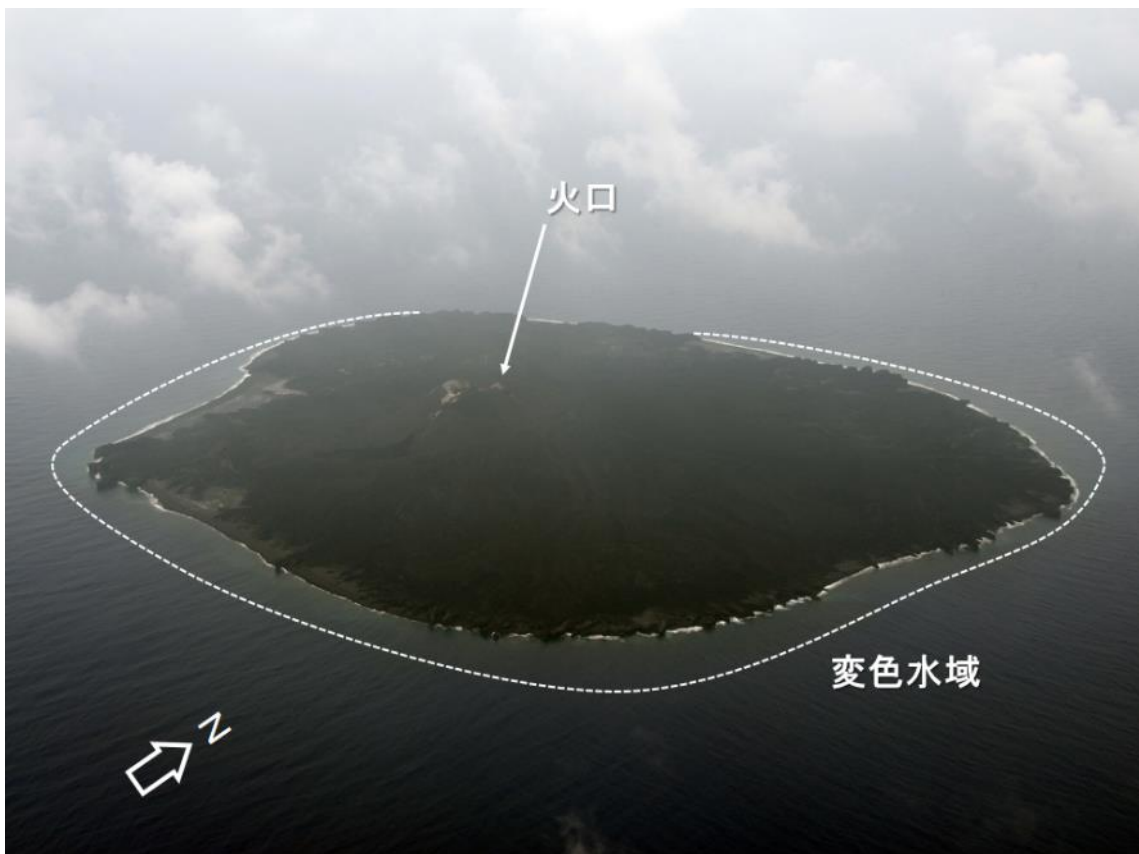


図4 西之島周辺の変色水域の状況（7月19日撮影）

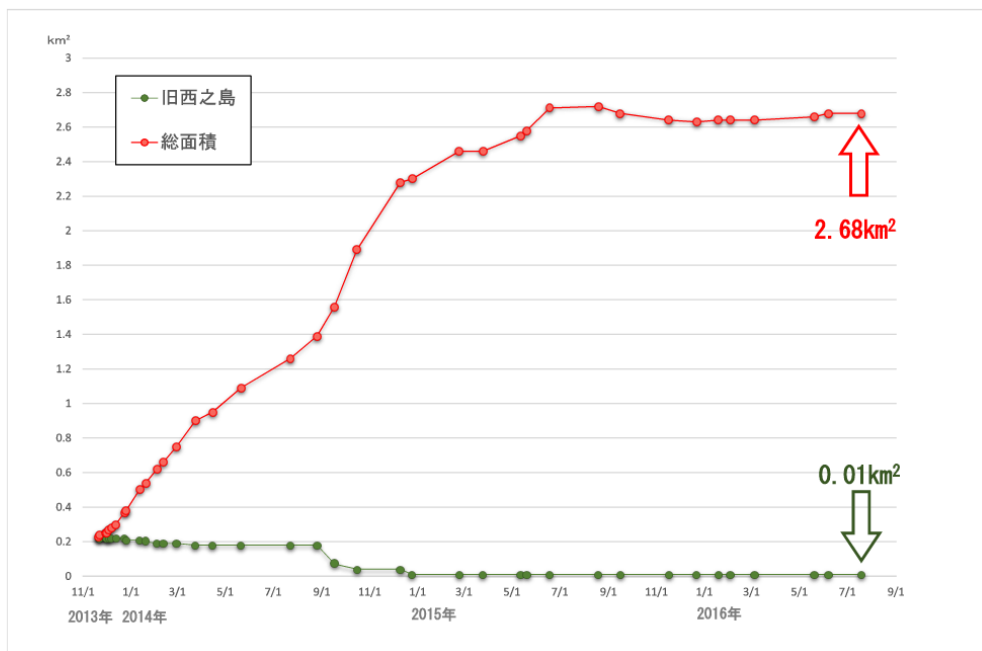


図5 西之島の面積変化グラフ

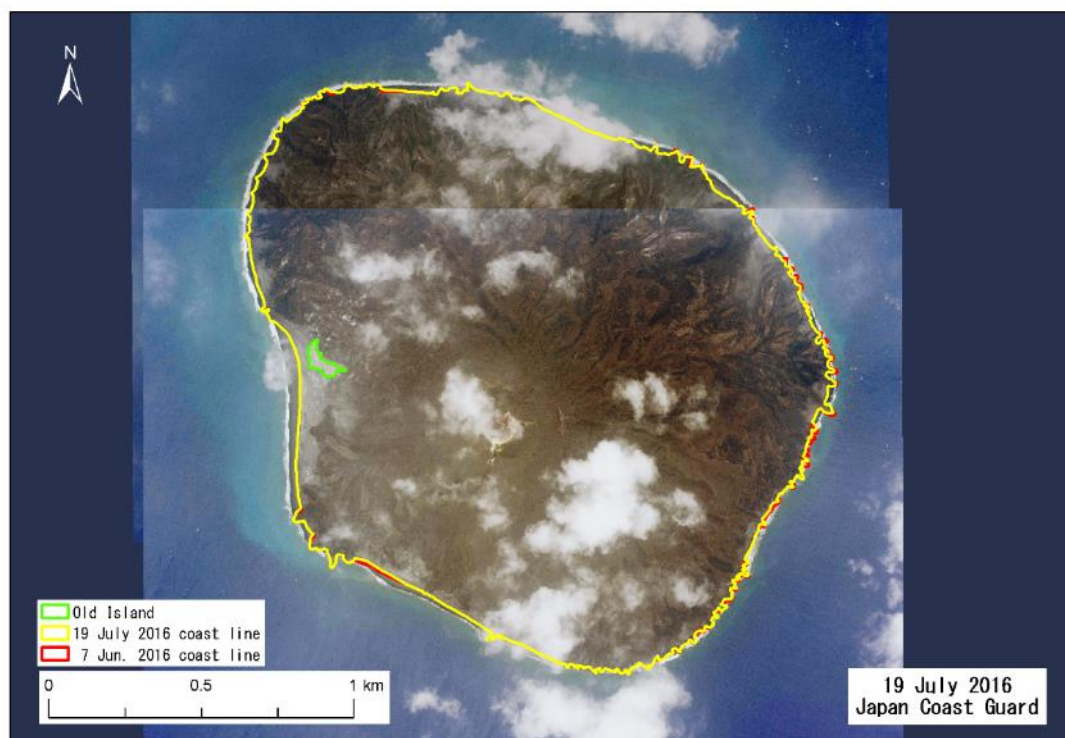


図6 西之島空中写真（7月19日撮影）